

ツメアカマルチビゴミムシダマシの北海道東部初記録

田中愛梨¹⁾A new distribution record of *Caedius fluviatilis* Nakane & Masumoto, 1979 (Coleoptera: Tenebrionidae) in East Hokkaido, JapanAiri TANAKA¹⁾

Abstract

Caedius fluviatilis Nakane & Masumoto, 1979 (Coleoptera: Tenebrionidae) was found at Oribegawa River in Kamishihoro town. This is first record in East Hokkaido, Japan.

はじめに

マルチビゴミムシダマシ属 *Caedius* は海岸や河川の砂地に生息する (秋田・益本 2016). 日本では 4 種が分布し, 北海道ではツメアカマルチビゴミムシダマシ *Caedius fluviatilis* Nakane and Masumoto, 1979 とマルチビゴミムシダマシ *Caedius marinus* Marsenul, 1876 の 2 種が確認されている (秋田・益本 2016). 両種ともに砂地に生息する種だが, マルチビゴミムシダマシが海岸と大河川のどちらの砂浜にも生息するのに対し, ツメアカマルチビゴミムシダマシは河川中流域の転石を交えた砂地に限って生息する (秋田・益本 2016). ツメアカマルチビゴミムシダマシは北海道において, 上川地方旭川市, 美瑛町 (佐々木 2013), 河川水辺の国勢調査によって日高地方平取町および上川地方上川町に確認されている (国土交通省 河川環境データベース) が, その他の記録は筆者の知る限り見出されていない.

今回, 北海道東部初記録と思われるツメアカマルチビゴミムシダマシを上士幌町居辺川で採集したため, ここに報告する.

標本情報

Caedius fluviatilis Nakane and Masumoto, 1979 ツメアカマルチビゴミムシダマシ (Fig. 1)

Specimens examined: Kamishihoro-cho, Higashioribe, Oribegawa River, 210 m, 2♂1♀, 24 Apr., 2022, A.Tanaka.

備考

前脛節の内縁に低い突起を欠くこと, 上翅の条溝が明瞭ではなく間室は顆粒で密に覆われることから本種と同定した (Fig.1A, B, C). 雌雄は前脛節の内縁端が広がるか否かで判別した (Fig.1B, C).

採集地は定期的に攪乱が起こる河原で, 局地的に形成された砂地の上で採集した. 採集した 3 頭以外には確認できなかった.

佐々木 (2013) では, 1989 年 5 月 15 日に旭川市忠和の石狩川河畔で 1 頭, 1996 年 6 月 3 日に美瑛町忠別の忠別川河畔で 60 頭を採集しており, 河川水辺の国勢調査のデータによると平取町沙流川で 2012 年 6 月 26 日に, 上川町大雪ダムで 2015 年 9 月 7 日から 8 日にかけて, それぞれピットフォールトラップで 1 頭が得られている (国土交通省 河川環境データベース). 本州においては 5 月, 6 月に加えて 11 月および 12 月にも採集されており (沢田 1985, 1987), 北海道では春と秋に, 本州では春と初冬に出現するようである.

大雪山国立公園を有する上士幌町では, 帯広畜産大学糠平生物研究所やひがし大雪博物館 (現ひがし大雪自然館) の設立, 書籍による昆虫の好採集地としての紹介などにより, 様々な研究者や昆虫採集家によって調査が行われてきた (芳賀 2010). 結果, 現在では 3,000 種を超える昆虫が記録されており (保田 2014), 特にコウチュウ目では道内で上川町に次いで 2 番目に多い 1,400 種以上が確認されている (芳賀 2016). しかし芳賀 (2010) は, 調査された分類群に偏りがあること, 調査対象が糠平以北の大雪山国立公園内部に集中していることを指摘している. 本種が見出された居辺川は国立公園の外である清水谷以南にあり, このような地を調査していく必要がある.

今後, 清水谷以南の調査を進めていきたい.

1) ひがし大雪自然館 〒080-1403 北海道河東郡上士幌町字ぬかびら源泉郷 48-2

Higashitaisetsu Nature Center, 48-2 Nukabira-gensenkyo, Kamishihoro-cho, Kato-gun, Hokkaido 080-1403, Japan

引用文献

- 秋田勝巳・益本仁雄, 2016. 日本産ゴミムシダマシ大図鑑. むし社.
- 芳賀 馨・柴田浩一・伊藤勝彦・川辺百樹, 2010. 上士幌町の甲虫類. 上士幌町ひがし大雪博物館研究報告, 32: 1-236.
- 芳賀 馨, 2016. 「上士幌町の甲虫類」の訂正と補遺. ひがし大雪自然館研究報告, 3: 1-35.
- 国土交通省. 河川環境データベース 河川水辺の国勢調

査. <http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/index.html>.

- 佐々木恵一, 2013. 北海道におけるツメアカマルチビゴミムシダマシの記録. *Jezoensis*, 39: 114.
- 沢田和宏, 1985. 神奈川県未記録の甲虫 8 種の記録. 甲虫ニュース, 69: 6.
- 沢田和宏, 1987. ツメアカマルチビゴミムシダマシの採集記録. 甲虫ニュース, 75, 76: 8.
- 保田信行, 2014. 大雪山昆虫誌. 北海道自然史研究会.

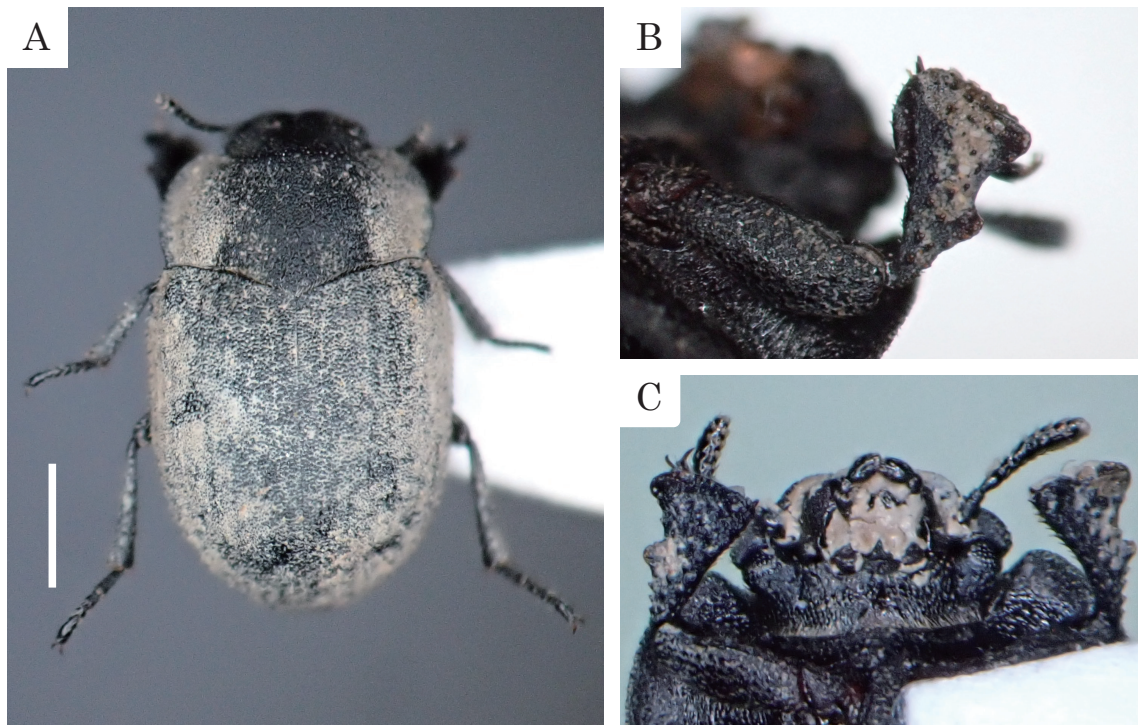


Fig.1 *C. fluviatilis* from Oribegawa River.

A: male, dorsal view (Scale: 1 mm), B: Protibia of male, C: Protibia of female.

Individuals are covered with sand so (A) is looked sandy color. Protibia of *C. fluviatilis* male (B) is broad on inner margin.